INTERVIEW

豊丸産業

角 日出夫

専務取締役COO

SUMI HIDEO

新たなるチャレンジ『超甘LT』

豊丸流イノベーションがもたらす業界の未来

1960年の設立から今年で65年目の節目を迎える豊丸産業。100年企業を目指して推し進めるのは、社内改革と新たな企業文化の創造だ。そして、業界に一石を投じるために開発した、娯楽性を追求した遊技機『超甘LT』の市場導入。パチンコ・パチスロ業界の未来に向けて、豊丸産業が考えるホールへの貢献を同社の角日出夫専務取締役COO に聞いた。

――業界の現状について、角専務はどのように考えておられますでしょうか?

角　娯楽の多様化が進む中でこの30年間市場が縮小し続けています。1995年に約3000万人いた参加人口は、2022年に約800万人と約4分の1に減少。それに伴い約31兆円あった市場規模が約15兆円に半減しています。参加人口の減少は、余暇の過ごし方が多様化している影響も多分にあると思いますが、それだけではないと考えています。パチンコが「大衆娯楽の王様」と呼ばれた時代から、業界は貸玉料など射幸性に対して工夫をして、各遊技機メーカーも機械開発に思慮深く取り組んできました。ですが、その中で他産業に比べてイノベーションが遅れているのではないか。加えて、近年は射幸性が著しく高まり、投資金額が上昇し過ぎているところもユーザー離れの一因として危惧しています。

――業界が良くなるためにどのような対応をしていくべきだと思われますか?

角　まずはユーザーニーズが多様化しているということを真摯に受け止めるべきではないかと考えています。また、余暇市場は社会経済とも密接に関係していますから、物価高が続いていることも念頭に置く必要があるかもしれません。その中で、参加人口の増加を促すには門戸を広げるしかない。現在は、ある程度射幸性の高い遊技機を市場に投入できていると思うので、娯楽性に重点を置いた遊技機も必要ではないかと思うわけです。昨年で言えば、物価高の中でも、ライブ鑑賞やスポーツ観戦といった「推し活」がレジャー消費をけん引して、レジャー消費が回復しました。つまり好調な産業があるわけです。先ほどイノベーションの話をしましたが、メーカーの新規参入のハードルが高いのもこの業界の特筆すべきところで、他産業では新規参入に伴い斬新で、革新的なアイデアで大改革が起きています。遊技機の高騰も解決すべき問題ですが、今後は例えば業界内全体で部品の共有化を図るなど、業界ならではの対策も生き残っていくために必要ではないでしょうか。

――その中で豊丸産業に求められる役割とは何でしょうか?

角　当社の経営理念は、「我が社が創造するアミューズメントの力で、世界中の人々を笑顔にします」です。この理念を追い求めることが当社のミッションであり、長年お世話になった関係各位に対する感謝を表現することだと思っています。その上で、いかに"豊丸だからできる"イノベーションに積極的に取り組めるかが、業界再成長の一翼を担えるかの鍵になってくる。豊丸産業は、長年この業界に従事してきた企業ではありますが、現在のマーケットシェアから見ると脆弱さは否めません。ただ、業界再構築に向けた想いは、どのメーカーにも負けていません。会社の規模感ではなく、熱い想いを姿形に変える行動力で勝負に挑みたいと考えています。そこで5年前くらいから取り組んできたのが、大規模な組織改革です。そこから私も豊丸産業に携わることになりました。

――携わることになった経緯も含めて教えてください。

角　社長の永野とは30年来の付き合いで、名古屋青年会議所に有志のラグビーチームがあり、そこで出会いました。当時私は、家内が名古屋の老舗企業のオーナーの一人娘で、お義父さんに熱心に声をかけていただいて、その名古屋の老舗企業に入社することになりました。37歳で[illegible]間社長を務めた後、[illegible]ルタントや講演のお[illegible]た。その際、永野か[illegible]手社員を中心にしと[illegible]ち上げようとして[illegible]れないか?」という[illegible]トをサポートする[illegible]関わることになりま[illegible]改革を起こすため

続きはデジタルブックでご覧いただけます。
詳細はこちら